

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう」 教材名「ごんぎつね（新美南吉）／言葉を分類しよう」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる（C(1)エ・オ）。読んで考えたことを伝え合い、感じ方に違いがあることに気付き、言葉がもつよさに気付いて、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句を増やし、性質や役割で分類して、文章の中で使っている。（(1)オ） ②文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（C(1)カ）	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめ、伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、ごんと兵十の気持ちが、場面の移り変わりの中で変わっていく物語である。前半はごんの側から、最後の場面は兵十の側から語られるので、同じ出来事を二人の気持ちで読み分けることになる。学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」をそのまま働かせられる教材である。月夜などの情景や昔の暮らしを表す語句も多く、(1)オの語彙を豊かにする学習とも結び付く。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、気持ちを一語で言い切らせず、「どの場面の、どの叙述から」を添えさせる。次に、正解を一つに決めず、叙述を根拠にした複数の考えを認める（C(1)力）。そして、教訓を引き出す道徳の授業にしない。単元の終わりに書く文章は、考え・根拠の叙述・前の場面との結び付け・初発の感想からの変化の四つがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、根拠の叙述が二つ以上の場面にわたる物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、場面ごとに「誰が、何をした」を一文で書く。 ○初発の感想（強く残った所・不思議に思った所）を書く。	態①（観察）
	2	○意味を知らない語句を辞書で調べ、語句カード（様子・行動・気持ち・性格）に書く。 ○初発の感想を読み合い、単元の問い「ごんと兵十の心は通じ合ったといえるか」と進め方を決める。	知①（語句カード・ノート）
	3	○物語から集めた様子・行動・気持ち・性格の語句を分類し、近い意味の違いを確かめて、自分の説明文で使う。	知①（語句の分類と使用）
第2次	4	○場面1（ごんがいたずらをする）を読み、ごんの行動に線を引いて「気持ちの変化の表」に書く。	知②（音読の観察）
	5	○場面2（兵十の母親の葬列をごんが見る）を読み、ごんの気持ちの変化を表に書く。	
	6	○場面3（ごんがつぐないを始める）を読み、前の場面と結び付けてごんの気持ちを想像する。	思①（ノート）
	7	○場面4・5（ごんが兵十と加助の後をついていき、二人の話を聞く）を読み、ごんと兵十の気持ちを表に書く。	
	8	○前半からのごんの行動と兵十が知っていることを読み合わせ、食い違いを表に整理する。	思①（人物ごとの行動と気持ちの記録）
	9 （本時）	○場面6を読み、ごんと兵十の気持ちがどこでどう変わったかを、前の場面と結び付けて想像し、自分の言葉で書く。	思①（ノート）
第3次	10～11	○表とノートを見返し、単元の問いへの考えを「考え→根拠の叙述→場面の結び付け→初発の感想からの変化」の順で文章に書く。	思②（文章） 態①（文章の見直し）
	12	○グループで文章を読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って全体で共有する。 ○学習を振り返る。新美南吉の他の作品を読む並行読書を紹介する。	思③（付箋・発言） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (9/12)

(1) 本時の目標

最後の場面のごんと兵十の気持ちを、行動の叙述と前の場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、二人の気持ちの変化を自分の言葉で書ける。(C(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの「気持ちの変化の表」で、場面5までのごんと兵十の気持ちを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「最後の場面で、二人の気持ちはどうなるでしょう」 【めあて】最後の場面で、兵十とごんの気持ちは、どこで、どう変わったかを考えよう。 3 先生の範読を聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・ごんはつぐないを続けていて、気付いてほしいと思っている。 ・兵十はまだ気付いていなくて、ごんをいたずらをしたきつねだと思っている。	・前時までの表を黒板に貼り、場面6の欄は空けておく。 ・範読の間、兵十の行動が分かる所に指を置いて聞かせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	4 一人で読み、兵十の行動に青線、ごんの行動に赤線を引く。 ○「兵十は最後の場面で、何を見て、何をしましたか。順番に言いましょう」 5 兵十の気持ちが変った所を考える。 ○「兵十の気持ちは、どこで変わりましたか。前と後でどう違いますか」 6 ごんの気持ちを、前の場面と結び付けて考える。 ○「ごんは最後にどんな気持ちだったと思いますか。前のどの場面と結び付けて考えましたか」 7 ペアで、考えと根拠の叙述を言い合う。全体で発表し、違いが出た所を表に書き足す。 〈予想される児童の反応〉 ・家に入ったごんを見つけて撃つ。 ・家の中の物に気付く。 ・ごんに声をかける。 ・持っていた物を落とす。 ・撃つ前は、憎い、腹が立つ。 ・気付いた後は、しまった、悪かった。 ・やっと気付いてもらえてうれしい。 ・撃たれて悲しい、くやしい。 ・うれしいと悲しいの両方。 ・場面3や5で、つぐないを続けたのに報われないと感じていたから。	・気持ちを問う前に、必ず行動の叙述を確かめる順にする。 ・言えない子には、青線の行動を順に指でたどらせ、「この時の気持ちは」と一つずつ聞く。 ・「かわいそう」など一語で終わる発言には「どの叙述から」と返す。 ・場面3や5のごんの行動と結び付ける子が出たら、表の欄を指して全体に広げる。 ・読むのが苦手な子には場面6だけの拡大本文（ルビ付き）を渡し、線を引く叙述を先生が一か所示す。 ・早く終わった子には「語り手はこの場面では誰の側から語っているか」を考えさせる。子どもから出なければ先生が示す。 ・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。
まとめ (分)	8 二人の気持ちの変化をノートに書く。 (型)「兵十の気持ちは…から…に変わった。それは…という行動から分かる。ごんは…。前の場面の…と結び付けると…」 9 二人が読み上げ、違いを確かめる。 10 振り返りを書く。	・振り返りは「叙述から分かったこと」と「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つで書かせる。 ・次時は単元の問いに答える文章を書くことを伝える。 ・「いたずらはいけない」などの教訓にまとめない。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ノート）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・本時の問い。その左に前時までの気持ちの変化の表（場面1～6を右から左へ並べ、ごんと兵十の二段に分ける。場面6の欄は空けておく）。中央に場面6の兵十の行動を時間の順に右から左へ矢印でつなぎ、その下に気持ちの変化（憎い→気付く→後悔）。その左にごんの行動と気持ち。左側に子どもの考え（うれしい・悲しい・両方）と根拠の叙述の番号。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

